

今後の整備スケジュール

・集学的治療及び標準的治療の提供

- 当センターでの治療が終了した後でも身近な地域で継続して医療、観察が受けられるよう地域連携クリティカルパスの作成を進めます。
- 平成27年夏ごろまでを目安に、小児がん拠点病院としての当センターの取組を公開するホームページを開設します。また、難治性小児がん患者本人や家族に対する情報公開も行います。
- 神奈川における小児がん診療連携施設との協議会を開催し、難治性小児がん患者治療後の後方搬送についても協議を行います。
- 小児がんの在宅緩和ケアの更なる推進に向けて環境整備に努めます。
- 各セクションへの緩和ケアリンクナースの配置を目指します。

・地域連携

- 地域の他の小児がん診療施設と、連携協議会などを通して連絡を強化します。今年7－10月に神奈川県内における連携協議会の準備会を開催し、第1回の連絡協議会を今年度中に開催します。
- 関東甲信越地区の他の小児がん拠点病院と連携し、小児血液・がん専門医を目指す医師を対象とした研修会を開催します。
- 各種成人型がんについて、得意な病院・医師のリストを作成します。
- 神奈川県立がんセンターの重粒子線治療施設が稼働した場合、小児がん患者も治療が受けられるよう整備を進めます。
- 関東甲信越地区の小児がん診療施設連携協議会で、小児がん拠点病院で対応することが難しい疾患について協力を得られる施設を検討し、患者紹介などの体制を整理する予定です。

今後の整備スケジュール

- 県内の成人診療施設と連携をとり、成人期の小児がん経験者が成人科に過不足なく移行できる診療体制を構築します。
- 県内の連絡協議会には県立がんセンター等成人診療施設にも加わっていただき、移行期医療についても対策を協議します。
- 県内外の登録医療機関が増えるよう、引き続き、研修事業や病院訪問を通して取り組むとともに、登録医療機関を中心として、かかりつけ医による日常診療（一次救急、予防接種など）を推進します。
 - ・ 日常診療を行う診療所の医師を対象とした研修の開催 5月 11月
 - ・ 診療所訪問 5～6回

・その他の取り組み

- 昨年度新規に開催した小児がん支援者向けの研修会（11月）、患者家族向けのセミナー（12月）を継続実施していきます。
- JPLSGが行う再発急性リンパ性白血病に対するICG-GCP準拠臨床試験であるIntReALL SR 2010国際共同試験に参加します。（今夏開始予定）
- 難治性小児がんに対する治療では新規薬剤の導入が必要です。治験やその他のGCP準拠試験を実施するために、小児がん治療に特化したCRCを雇用し、小児がん臨床試験データセンターを開設します。
- 相談機能の強化として、現代の状況に沿った相談方法の充実を図ります。（メール相談の開始などの検討）
- 病状により集団学習に参加できない子どもたちのための環境を整備するための場所や方法などを検討していきます。
- 入院中から、退院後の復学に向け、学校という集団生活の体験の機会を設けられるような体制づくりを考慮していきます。

小児がん拠点病院整備の 進捗状況について

関東甲信越ブロック
埼玉県立小児医療センター

診療実績

年間入院患者 数の状況	診療実績												地域連携	緩和ケア	相談支援 センター																					
小児がん入 院患者数	造血器腫瘍												他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	小児がん患者の他施設への紹介患者数	緩和ケアチームが新規で診療を実施した 小児がん患者数	相談支援 センター 相談件数																			
	固形腫瘍												その他	脳・脊髄腫瘍	胚細胞腫瘍	軟部腫瘍	骨腫瘍	肝腫瘍	腎腫瘍	網膜芽腫	神経芽腫等群	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症 H L H	組織球症 L C H	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症T-ME登録	神	網	腎	肝	骨	軟	胚	脳	その他
	A L L	A M L	まれな白血病	MDS\MPDのうちCML	MDS\MPDのうちCMLを除く	非ホジキンリンパ腫	ホジキンリンパ腫	その他のリンパ増殖性疾患	組織球症 H L H	組織球症 L C H	その他の組織球症	その他の造血器腫瘍	ダウン症T-ME登録	神	網	腎	肝	骨	軟	胚	脳	その他														
	19	8	0	0	0	6	0	0	0	5	2	0	0	9	6	0	1	3	0	2	4	1	3	0	2	6	24	0	95	46	4	12	相談支援 センター 相談件数			
	13	11	0	0	0	3	5	1	0	6	3	0	0	2	4	1	2	1	2	4	1	1	2	0	2	14	2	73	41	8	32					
	24	3	0	1	3	3	0	0	0	0	2	0	0	3	3	0	1	5	1	1	3	0	3	0	2	20	3	75	51	8						

【数値について】上段は、平成24年10月9日〆提出の新規指定申請書の数値（平成23年分実績）
中段は、平成25年12月末提出の現況報告の数値（平成24年分実績）
下段は、平成25年1月～12月の実績値

※相談支援センター相談件数の中段は、平成25年度現況報告時の「平成25年10月1日～11月30日」を記載している。

指定前後の変化

・進捗があった点

I. 集学的治療及び標準的治療の提供

- ・埼玉県がんセンターに依頼してIMRTを行うことが可能になった。
- ・JPLSG ALL-B12研究が開始されたこともあり、臨床試験登録数が大幅に増加した。
- ・小児がん入院病棟の保育士を1名から2名に増員し、8:30から20:00まで常駐になった。
- ・緩和ケアチームへの依頼件数が増加した。（平成24年度51件から平成25年度99件）
- ・緩和ケア研修会を他施設に開放し、平成25年度は他施設から延べ23名の参加があった。

II. 地域連携

- ・埼玉県小児がん診療病院連携協議会を設置し、第1回の会合を行った。
特に整形外科領域の小児がんについての連携に向けた協議を開始した。
- ・ホームページに小児がん拠点病院のページを設け、相談支援センター、緩和ケアチーム、家族会会報の情報を追加した。
- ・CLSが常勤となり、また相談支援センターに配属され、綿密に連携した支援が可能となった。

III. その他

- ・当センターでの研修希望が増加し、無給ではあるが2名が研修中である。
- ・治療管理室を設置した。
- ・医師事務作業補助者の配置を1.5倍にし、医師の負担軽減を図っている。
- ・患者滞在施設として2室を病院で借り上げ、小児がん患者家族の長期滞在に対応した。

指定前後の変化

・進捗が無かった点

I. 集学的治療及び標準的治療の提供

- ・小児がん拠点病院としての業務が増加し、患者も増加傾向であるが、医師や相談支援部門の人的増員が実現していない。
- ・臨床試験登録数は増加しているが、臨床試験を支援する人員の配置はできていない。
- ・臨床心理士が不足しているため、小児がん患者の精神・心理的側面での支援が不十分である。また認知機能の評価や支援も脳腫瘍患者以外ではほとんどできていない。
- ・思春期の患者は増加傾向であるが、プライバシーに配慮した入院環境の整備は進んでいない。

II. 地域連携

- ・県内の小児がん患者の実際の流れが把握できていない。
- ・長期フォローアップ外来が設定されていない。

III. その他

- ・緩和ケア研修を除いては、研修事業が実現していない。
- ・治験管理室はできたが、担当者は専従ではなく、その業務のほとんどを薬剤部で兼務している。
- ・小児がん拠点病院で唯一CRCが配置されておらず、医師主導治験では医師が書類作成等を行っている。
- ・高校生への教育支援は実現していない。

(要望) ・CLSの資格更新のための海外研修費用については、小児がん拠点病院機能強化事業費の予算措置がなく負担が大きいの。是非、予算措置に含めていただきたい。

事業実績報告

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費 5. 4百万円

内 訳

- ・小児がん医療従事者研修事業
(研修会開催2回、県内連携病院協議会開催) 0. 3百万円
- ・院内がん登録促進事業 0百万円
- ・がん相談支援事業
(MSWIによる患者、家族相談支援) 1. 1百万円
- ・プレイルーム運営事業
(患児保育のための病棟保育士の配置) 4. 0百万円
- ・入院患者家族支援事業 0百万円

今後の整備スケジュール1

I. 集学的治療及び標準的治療の提供

- ・平成27年度および新病院に移転する翌28年度に小児がん診療に従事する医師の増員を実現する。
- ・相談支援部門の人員を増員する。
- ・平成26年8月に臨床心理士（臨時職員）1名を増員し、小児がん患者の精神・心理的支援を充実する。
- ・平成26年度中に再発ALLを対象としたICH-GCP準拠の臨床試験に参加する。
- ・平成28年に移転予定の新病院では、無菌病棟の新設、PICUの充実を行い、より安全かつ高度の診療を実現する。
- ・埼玉県内の血液内科との連携を更に強化し、高校生の受け入れを拡大する。
- ・新病院では思春期患者用の病棟の整備を行う。
- ・地域に開放した緩和ケア研修会を毎年継続し、他施設からの参加者増加を図る。関東甲信越ブロックレベルでの研修とも連携する。
- ・地域の医療機関等からの緩和ケアの相談に応需可能な体制の整備に向けた検討を平成26年度中に開始する。
- ・緩和ケアレベルの向上のために、院内での疼痛評価システムの統一化を図る。
- ・平成27年度中に限定された病棟で新評価システムの試行と評価を行い、翌28年度には病院全体に広げる。

今後の整備スケジュール2

II. 地域連携

- ・ 埼玉県小児がん診療病院連携協議会を定期的に開催する。
- ・ 骨肉腫等の整形外科領域の診療連携を平成26年度中に進める。
- ・ 平成26年度中に造血細胞移植患者の長期フォローアップ外来を開設する。
- ・ 新病院では移植患者以外も対象とした長期フォローアップ外来を開設し、隣接するさいたま赤十字病院と連携して充実した長期フォローアップを実現する。

そのために平成26年度中にさいたま赤十字病院との協議を開始する。

III. その他

- ・ 平成26年度秋から小児がん看護研修を開始する。
- ・ OSCRデータセンターの支援を受けて、平成26年度中に臨床試験支援の人員を確保する。新病院ではCRCの配置を実現する予定である。
- ・ 高校生への教育支援に向けて、教育委員会と協議を開始する。

小児がん拠点病院整備の進捗状況に ついて

近畿ブロック
兵庫県立こども病院

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況		診療実績												地域連携		緩和ケア	相談支援センター				
小児がん入院患者数	その他	造血器腫瘍												固形腫瘍							その他
		A L L												A M L							
		まれな白血病												(1)							
		M D S / M P D のうち C M L												(0)							
		M D S / M P D のうち C M L を除く												(4)							
		非ホジキンリンパ腫												(5)							
		ホジキンリンパ腫												(1)							
		その他のリンパ増殖性疾患												(0)							
		組織球症 H L H												(0)							
		組織球症 L C H												(3)							
		その他の組織球症												(0)							
		その他の造血器腫瘍												(0)							
		ダウン症 T A M 登録												(1)							
		神経芽腫瘍群												(8)							
		網膜芽腫												(2)							
腎腫瘍												(4)									
肝腫瘍												(1)									
骨腫瘍												(0)									
軟部腫瘍												(3)									
胚細胞腫瘍												(14)									
脳・脊髄腫瘍												(11)									
その他												(4)									
他施設から紹介された小児がん患者数												(72)									
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数												(55)									
小児がん患者の他施設への紹介患者												(6)									
緩和ケアチームが新規診療を実施した小児がん患者数												(20)									
相談支援センター相談件数												10 81									

・（ ）内は平成24年10月9日提出の新規指定申請書の数値、中段は平成25年12月末提出の現況報告の数値、
下段は平成25年1月～12月の数値

指定前後の変化(1)

・進捗があった点

○診療

[1]小児がん医療センターの開設

- 1) 専属のCRC(Clinical Research Coordinator)及びがん登録クレークの配置。
- 2) がん相談支援室が設置され、専任の看護師、MSWを配置。
入院／外来を問わず患者家族の各種相談への円滑な対応が可能となる。
- 3) 緩和ケア委員会の下部組織として緩和ケアサポートチーム(ここにサポートチーム)を設置。
- 4) 長期フォローアップ外来を開設。造血細胞移植後患者を対象に他科と連携しながら、より総合的なフォローアップが可能となる。

[2]患者支援

- 1) ビーズ・オブ・カレッジを入院および外来の小児がん患児に導入。
- 2) ホスピタルプレイスペシャリストと連携した幼児・学童に対する積極的なプレパレーションの推進。
- 3) 小児がん経験者の長期フォローアップの一環として、本年8月にボランティア団体と協力したサマーキャンプを計画、実施予定。
- 4) 入院患者の心理的サポートへの臨床心理士の介入。

○連携

- 1) 今年度より兵庫県がん診療連携協議会に参加し県内の成人領域のがん拠点病院と定期的に情報を交換する。
- 2) 中四国との連携：広島大学を中心に中四国の小児がん診療病院で月1回開催されているTV会議に参加し、中四国施設とのより密接な連携が図られるようになった。
- 3) 平成28年に移転予定の新病院に隣接して、小児がんの重点を置いた粒子線治療センターが開設されることが決定。患者搬送や鎮静のための医師の配置など、運用面での具体的な検討を開始。

指定前後の変化(2)

○教育

- 1) 昨年まで血液腫瘍内科に所属した2名のフェロー医師が、各々別の小児がん専門施設に異動して活躍を続けている。
- 2) 新年度より血液腫瘍内科はフェローを5名に増員し、引き続き積極的に小児がん専門医を目指す若手医師を教育・育成に努めている。
- 3) 全職種対象の当科医師・看護師等による定期的な院内勉強会開催。

○研究

- 1) 当院は神戸大学の連携大学院となっている。神戸大学から講師を招き、統計学についての講演会を定期的に開催している。
- 2) ICH-GCPIに準拠した臨床試験に参加する。スタッフのICR臨床研究入門web受講を督促。

・進捗が無かった点

- 1) 長期フォローアップ外来が開始されたが、その対象が造血細胞移植後患者のみ。
→代謝内分泌科をはじめ、他科との連携をさらに強化し、対象症例を拡充する。
- 2) AYA世代、特に院内学級制度が適用されない高校生の学習面での支援が不十分。
→ボランティア大学生による学習支援システムの構築を目指す。
- 3) 療養環境全般の不備：当院は1971年に建設され、病棟および諸設備の著しい老朽化と狭隘さ。
→平成28年の移転新築計画が進行中。1床あたりの面積を増加し、空調他の環境面を充実させる。
- 4) 臨床心理士の専任化。
→臨床心理士増員の上、専任化を目指す。

事業実績報告

病院名：兵庫県立こども病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費

14百万円

・小児がん医療従事者研修事業

0百万円

小児がん・緩和医療に関する講演会(6回)、緩和ケアチームに対する緩和ケア研修会(1回)、がん相談支援センター相談員研修(1回)の開催

・院内がん登録促進事業

0百万円

入院・外来がん登録の実施(院内登録件数74件)、診療情報管理士・がん登録実務者の連携促進

・がん相談支援事業

9百万円

面談、電話等によるがん患者の療養上の相談(相談件数88件)、情報提供、がん相談支援センター業務の広報(セカンドオピニオンの受入れ8件、紹介5件)

・プレイルーム運営事業

5百万円

小児がん入院患者の療養環境を維持・改善するためのプレイルームの運営継続、病棟保育士の配置、絵本・玩具類の購入

・入院患者家族支援事業

0百万円

小児がん入院患者の付き添い家族等が利用する滞在施設の運営

今後の整備スケジュール(1)

(1)集学的治療・標準的治療の提供

(2)再発・難治例の診療の拡充

(3)AYA世代・長期フォローアップ診療推進

(4)小児がん相談支援室の整備と患者支援の推進

(5)緩和医療の推進

(6)患者の教育支援

(7)地域連携の強化

(8)新病院移転計画の推進

(9)新病院へ移転

(10)新粒子線センターとの連携の整備

26年

27年

28年

29年

今後の整備スケジュール(2)

- 平成26年4月 : 小児がん医療センター開設(1) (2)
長期フォローアップ外来開設(3)
- 平成26年6月 : にこにこサポートチーム(緩和ケアチーム)診療開始(5)
- 平成26年7月 : 『小児がんに対する粒子線治療を考えるフォーラム』開催(9)
ICH-GCP準拠の臨床試験『IntReALL 2010国際共同研究』に参加(2)
- 平成27年4月 : 長期フォローアップ外来の対象症例拡充(3)
専属のMSW配置(4) (7)
臨床心理士の専任化(4) (5)
小児がん診療地域連携パス整備(7)
ボランティア大学生による高校生向け学習支援システム整備(3) (6)
- 平成27年9月 : 緩和ケア認定看護師配置(5)
- 平成28年5月頃 : 新病院へ移転(9)
病室・リハビリ室・プレイルームなどの拡充(8)
訪問学級から院内学級へ(6) (8)
患者家族宿泊施設拡充(11室→16室) (4) (7)
- 平成29年5月頃 : 小児に特化した粒子線治療センター新病院隣接地に開設(10)

小児がん拠点病院整備の進捗状況に ついて

近畿ブロック
京都府立医科大学附属病院

年間入院患者数の状況		診療実績							地域連携		緩和ケア	相談支援センター																								
小児がん入院患者数	造血器腫瘍	M D S / M P D のうち C M L を除く	(2)	2	2	(0)	0	0	1	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	4	(0)	26	37	(32)	22	26	(26)	32	36	(34)	8	16	(5)	(238)	60		
		M D S / M P D のうち C M L	(0)	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		まれな白血病	(0)	0	0	0	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		A M L	(5)	3	2	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		A L L	(7)	8	3	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		非ホジキンリンパ腫	(2)	2	2	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ホジキンリンパ腫	(1)	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		その他のリンパ増殖性疾患	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		組織球症 H L H	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		組織球症 L C H	(1)	2	2	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		その他の組織球症	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		その他の造血器腫瘍	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		ダウン症 T A M 登録	(0)	1	3	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		神経芽腫瘍群	(4)	4	2	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		網膜芽腫	(1)	0	1	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	腎腫瘍	(1)	0	1	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
肝腫瘍	(2)	1	2	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
骨腫瘍	(1)	0	4	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
軟部腫瘍	(5)	4	3	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
胚細胞腫瘍	(3)	6	5	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
脳・脊髄腫瘍	(4)	2	3	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
その他	(0)	0	4	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	(0)	0	0	0	(0)	0	0	(0)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
他施設から紹介された小児がん患者数	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37	(32)	26	37
小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26	(26)	22	26
小児がん患者の他施設への紹介患者数	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36	(34)	32	36
緩和ケアチームが新規診療を実施した小児がん患者数	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16	(5)	8	16
相談支援センター相談件数	(238)	60		(238)	60		(238)	60		(238)	60		(238)	60		(238)	60		(238)	60		(238)	60		(238)	60		(238)	60		(238)	60		(238)	60	

・（ ）内は平成24年10月9日×提出の新規指定申請書の数値、下段は平成25年12月末提出の現況報告の数値

指定前後の変化

・ 進捗があった点

- ・ 集学的治療や標準的治療の提供
 - (1) チームによる集学的治療及び標準的治療の実施体制
 - 小児がん専用キヤンサーボードルームの整備を行い頻回に開催
 - 口腔ケアの導入により口腔内感染の減少と疼痛の減少
 - 栄養士による献立相談の取り組みにより食事摂取量の改善
 - リハビリの導入により、筋力回復
 - (2) 思春期のがん患者への診療体制
 - 成人病棟での治療によりAYA世代患者の増加
 - 個別高等教育の開始により思春期がん患者の意欲の向上
 - 院内での高校入学試験の実施により復学を支援
 - (3) 緩和ケアチームによる緩和ケアの実施体制
 - 緩和ケア病棟設置
 - 疼痛緩和専門医への依頼により疼痛のきめ細かな管理
 - 終末期の患者及び家族への心理士の介入により心理的緩和
 - 訪問看護ステーションとの連携により、在宅医療の促進
- ・ 地域連携
 - 近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の開催(4回)により連携
 - 近畿ブロック小児がん診療病院連絡会の開催(1回)により拠点病院以外の病院との連携
 - 京都府立医科大学主催教育研修会の開催により医療関係者の研修と地域連携(H25.3.22)
 - 「京都府小児がん拠点病院連携推進会議」を3回開催し京都大学との連携
 - 京都大学との連携として「京都府小児がん拠点病院連携シンポジウム」の開催により、地域連携の推進(H26.3.21)
- ・ その他
 - (1) 研修の実施
 - 小児がん医療従事者研修事業、小児がん拠点病院指定記念研修会の開催(H25.3.22)
 - 看護学生、医学部生、ノートルダム女子大学ボランティア養成講座生、京都造形芸術大学生の実習受け入れにより多職種教育に貢献

指定前後の変化

・ 進捗があった点

(2) 相談支援体制

➢ 全国からの小児がん相談件数の増加 H24年度 100件→H25年度 307件

(3) 臨床研究及びトランスレーショナルリサーチの実施体制及び研究

- 研究開発・質管理向上統合センターの開設により臨床研究の推進
- 大学院医学研究科医療フロンティア展開学の新設により臨床研究の推進
- 生物統計学教室の開設により臨床研究の質の担保
- (4) 患者の発育および教育、復学支援
 - ピアサポーターの活動に協力
 - きょうだいの支援(京都YMCAなどボランティア、保育士)
 - 情報公開HPの整備、府民公開講座「子どもたちの未来のために」の開催(H25.3.25)による患者への情報提供
 - 高校教育の援助、院内高校受験の実施
 - 定例の小児がん「ひだまりサロン for kids」の開催時に託児所を開設(年4回)

・ 進捗が無かった点

(1) チャイルドライフスペシャリストの雇用

➢ 稀少職種であり、採用が困難であるため、現行の保育士が子ども療養支援士などの資格を習得するように研修を受講する予定である

(2) 小児がん拠点病院委員会の設置

➢ 関係各部署と調整の上26年度に設置を予定

(3) 公的高校教育の導入

➢ 京都府および近隣都道府県の教育委員会へ働きかけ、訪問教育の実施を目指す

(4) サルコーマセンターの設置

➢ 病院整備計画への盛り込み

事業実績報告

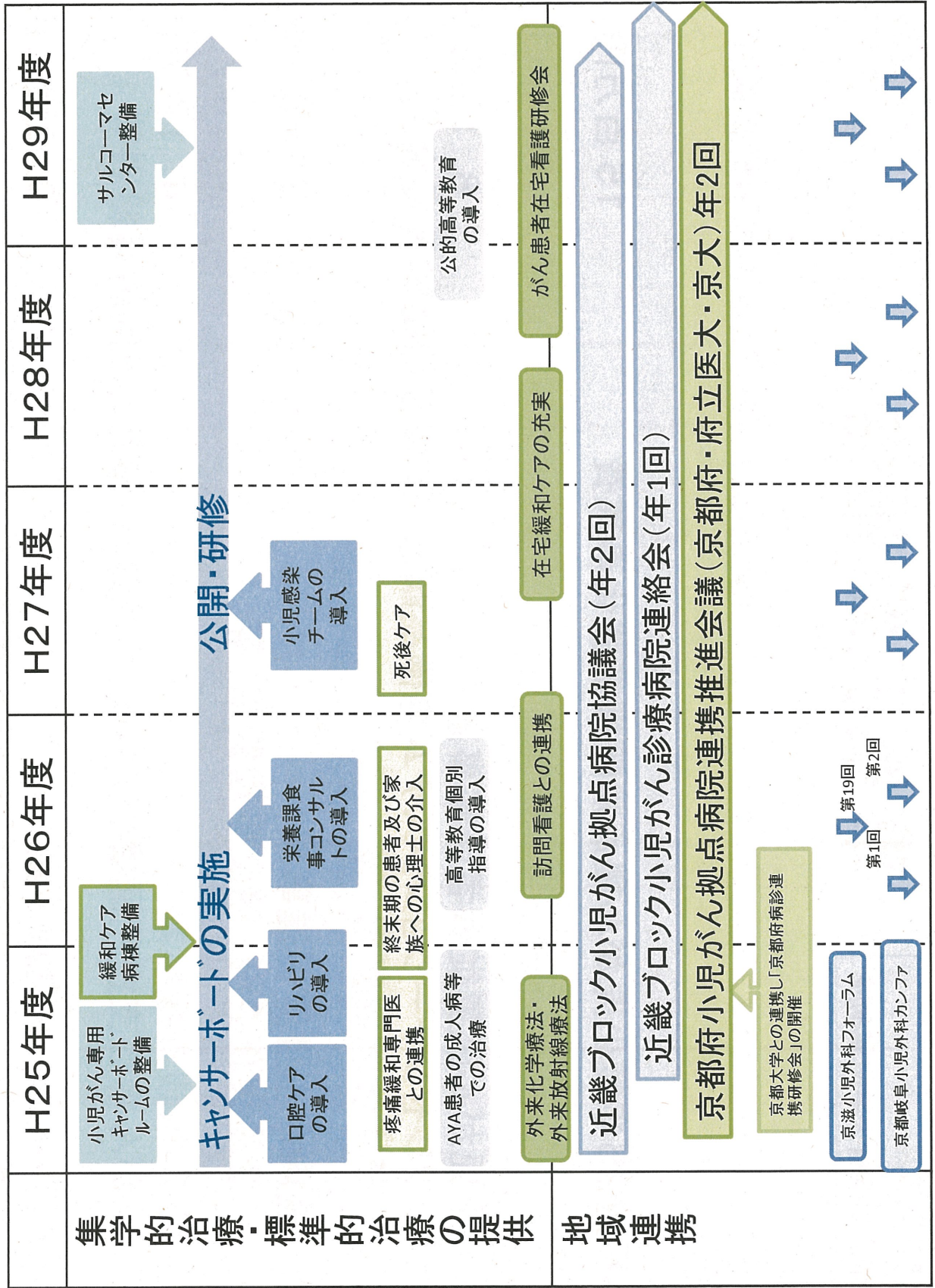
病院名：京都府立医科大学附属病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費

15 百万円

- ・小児がん医療従事者研修事業
プレゼンテーションシステム等備品購入、研修会補助職員賃金、
研修会開催費用 等 8. 1百万円
- ・院内がん登録促進事業
登録実務委託、精度管理費用 等 2. 6百万円
- ・がん相談支援事業
がん相談支援用図書、資料作成、相談用備品、相談職員給料等 4. 1百万円
- ・プレイルーム運営事業
プレイレーション備品、おもちゃ等購入 0. 2百万円

今後の整備スケジュール



今後の整備スケジュール

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
研修の実施		京都大学との連携し「京都府 病診連携研修会」の開催 兄弟保育 兄弟支援活動ピ アサポート養成 親の会ピアサポート 養成研修会 京都府と連携したピアカウンセラー 養成・ピアカウンセリング事業 小児がん専門医を目指す京都セミナー（年1回） ボランティア養成講座実習			
相談支援、広 報、患者団体 との連携		退院後支援・兄弟支援キャンプ（年1回） 患者会、ボランティア 連携協議会の開設 府民公開講座（年1回）			
臨床研究	研究開発・質管理向上 統合センターの開設 大学院医学研究科医療フロ ンティア展開学の開設 生物統計学教 室の開設				
教育、復 学支援		高等教育個別 指導の導入	教育関係者向 け講座	教育関係者向 け講座	公的高等教育 の導入

小児がん拠点病院整備の進捗状況に ついて

近畿ブロック

京都大学医学部附属病院

実績

年間入院患者数の状況	診療実績	地域連携	緩和ケア	相談支援センター
小児がん入院患者数	造血器腫瘍	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	緩和ケアチームが新規診療を実施した小児がん患者数	相談支援センター相談件数
		他施設から紹介された小児がん患者数		
	固形腫瘍	小児がん患者の他施設への紹介患者数		
	その他	その他		
	脳・脊髄腫瘍	(5)	(12)	127
	胚細胞腫瘍	(0)	7	
	軟部腫瘍	(1)	(25)	
	骨腫瘍	(3)	(46)	
	肝腫瘍	(1)	77	
	腎腫瘍	(1)	61	
	網膜芽腫	(0)	《55》	《30》
	神経芽腫瘍群	(0)	99	
	ダウソング症TAM登録	(0)	(78)	
	その他の造血器腫瘍	(0)	(55)	
	その他の組織球症	(0)	《0》	
	組織球症 LCH	(0)	《0》	
	組織球症 HLH	(0)	《0》	
	その他のリンパ増殖性疾患	(0)	《0》	
	ホジキンリンパ腫	(0)	《0》	
	非ホジキンリンパ腫	(2)	《2》	
	MDS / MPDのうちCMLを除く	(0)	《2》	
	MDS / MPDのうちCML	(2)	《2》	
	まれな白血病	(0)	《0》	
	AML	(2)	《1》	
	ALL	(8)	《4》	

- ・() 内は平成24年10月9日提出の新規指定申請書の数値(平成23年1月～12月)
- ・中段は平成25年12月末提出の現況報告の数値(平成24年1月～12月)
- ・《 》内は平成25年1月～12月の数値

指定前後の変化

進捗があった点

☆小児がん医療従事者研修事業

- 1) 研修体制の充実化
院外より講師を招き小児緩和ケアカンファレンス、小児緩和ケア勉強会を開催
- 2) Web会議システムの導入
連携病院との情報共有の利便性のため、Web会議システムを導入

☆院内がん登録促進事業

- 1) 院内がん登録などのデータ登録等の徹底
データ登録補助職員の計3名の雇用を継続し、データ入力・連絡業務の確実・迅速化

☆がん相談支援事業

- 1) 小児がん相談体制の確立
 - ・ 小児がん専任のがん相談員1名を雇用し、成人のがん相談員と共同した相談体制
 - ・ 小児がんに関する図書、資料の拡充
 - ・ 小児科病棟、小児血液がん外来へ出張相談
 - ・ チャイルドピアによるピアサポート体制の確立



相談実績の大幅な増加：5件→472件（平成25年度）

指定前後の変化

進捗があった点(つづき)

☆プレイルーム運営事業

1) 環境整備

- ・ 老朽化した遊具の入れ替え、絵本など書籍の購入
- ・ 床に厚手のマットを敷設、収納棚等の導入

☆入院患者家族支援事業

1) 入院環境の整備

- ・ 病棟内の小児用デコレーション、プリパレーション用玩具の購入
- ・ 病室への簡易ソファベッドの導入
- ・ 病棟・外来にパンフレットなど説明資料を拡充

進捗が無かった点

該当せず

事業実績報告

病院名：京都大学医学部附属病院

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費 13. 3百万円

☆小児がん医療従事者研修事業

．．．．． 小児緩和ケアカンファレンス等講師謝金

Web会議システムの整備等

1. 6百万円

☆院内がん登録促進事業

．．．．． 小児がん症例の登録等のための人員雇用
登録データベース用PC及び消耗品の購入等

4. 2百万円

☆がん相談支援事業

．．．．． 小児専任相談員の雇用、相談支援室の整備
がん拠点病院ホームページ作成等

4. 4百万円

☆プレイルーム運営事業

．．．．． プレイルーム環境整備用品購入（玩具、収納用品等）
病棟保育士の雇用

1. 9百万円

☆入院患者家族支援事業

．．．．． 入院環境整備品購入（ベッド用テーブル、ウォールステッカー）
広報活動用パンフレットの作成

1. 2百万円

今後の整備スケジュール

現在実施中であり、本年度さらに推し進めるもの

☆小児がん医療従事者研修事業

- 1) 小児がん医療従事者の育成
小児がんユニットカンファレンス、病理カンファレンス、各種研究会などの開催と公開

☆地域連携

- 1) 近畿ブロック小児がん拠点病院協議会の開催（4回）
- 2) 近畿ブロック小児がん拠点病院連絡会の開催（1回）による拠点病院以外の病院との連携
- 3) 京都府小児がん拠点病院連携推進会議を3回開催し京都府立医科大学と連携
- 4) 京都府立医科大学と連携して「京都府病診連携研修会」の開催により、地域連携の推進
- 5) Web会議システムを活用した連携病院との症例検討
- 6) 患者会やピアサポートを通じた情報提供

☆集学的治療及び標準的治療の提供

- 1) 小児がんユニットのさらなる円滑な運用
 - ・ 合同カンファレンス等による関連他科とのよりシームレスな連携
 - ・ 院内の小児がん疑い患者への診療援助・介入

☆緩和ケア

- 1) 小児緩和ケアチームの拡充
成人の緩和ケアチームと連携した包括的な緩和ケアの実施体制を推進

今後の整備スケジュール

現在実施中であり、本年度さらに推し進めるもの（つづき）

☆がん相談支援事業

- 1) チャイルドピア・患者会支援
 - ・ チャイルドピア活動の継続
 - ・ ピアサポート研修を通じたスタッフ育成
 - ・ 患者会支援

☆AYA世代

- 1) 入院環境整備
 - ・ 連携する当該成人科とスムーズな診療が出来るよう連携を深め利用を促す
 - ・ AYA世代用の自習室をより使いやすいものにするべく引き続き環境整備を行う。

☆プレイルーム運営事業

- 1) 保育士、ボランティアグループの相乗的患児支援
「にこにこトマト」やホスピタルクラウンと連携した遊びの提供と病棟保育

計画中であり、本年度中に着手を目指すもの

☆プレイルーム運営事業

さらに需要に応えるため保育士1名の増員を計画中

☆入院患者家族支援事業

現行のファミリーハウス及び芝蘭会館以外の宿泊施設としてマクドナルドハウスの建設計画の検討開始

小児がん拠点病院整備の進捗状況に ついて

近畿ブロック
大阪市立総合医療センター

診療実績

資料1

年間入院患者数の状況	診療実績	地域連携	緩和ケア	相談支援センター
小児がん入院患者数	造血器腫瘍	小児がん患者の紹介を受けた医療機関数	緩和ケアチームが新規診療を実施した小児がん患者数	相談支援センター相談件数
		他施設から紹介された小児がん患者数	小児がん患者の他施設への紹介患者	
		その他のリンパ増殖性疾患		
		ホジキンリンパ腫		
		非ホジキンリンパ腫		
		M D S / M P D のうち C M L を除く		
		M D S / M P D のうち C M L		
		まれな白血病		
		A M L		
		A L L		
	固形腫瘍	神経芽腫瘍群		
		網膜芽腫		
		腎腫瘍		
		肝腫瘍		
		骨腫瘍		
		軟部腫瘍		
		胚細胞腫瘍		
		脳・脊髄腫瘍		
		その他		
		その他		
(329)				
483			(35)	
817			45	
			61	
		(21)		
		(50)		
		(59)		
		(0)		
		(15)		
		(1)		
		(2)		
		(0)		
		(0)		
		(1)		
		(2)		
		(3)		
		(0)		
		(0)		
		(0)		
		(0)		
		(0)		
		(1)		
		(0)		
		(1)		
		(3)		
		(4)		
		(0)		
		(0)		
		(0)		
		(0)		
		(5)		
		(9)		

・（ ）内は平成24年10月9日提出の新規指定申請書の数値、中段は平成25年12月末提出の現況報告の数値
下段は平成25年1月～12月分の数値

指定前後の変化 (実施できたこと)

- ・ 診療実績
 - － 患者数は増加傾向：今年上半期で新規患者数40名
 - － AYA世代の増加：平成24年の6名から25年は12名に増加（他院血液内科や大阪府がん拠点病院からの紹介：おもに成人病棟で対応）
- ・ 診療体制
 - － レジデント1名の増員。レジデント1名を脳腫瘍基礎研究のため、国立がんセンターに派遣（2年間の予定）
- ・ 医師主導治験
 - － 1件から2件に増加。さらにもう1件について研究費を申請中
- ・ 長期フォローアップ外来
 - － コーディネートナースの配置、多職種（小児内分泌科、小児言語科、心理士、MSW、コーディネーターナース）によるカンファレンス（事前・事後アセスメント、介入方法の検討など）
- ・ 心理サポート
 - － AYA世代にも小児サポートチームの介入を開始
- ・ 保育・教育
 - － 長期入院乳幼児の発達の遅れを防ぐため、保育士を4名から6名に増員強化。同時にきょうだい保育も開始（これまではボランティア）
 - － 学習ボランティアの導入
 - － 専従MSWによる復学支援の強化
- ・ 患者どうしの語らいの場の提供
 - － 毎月外来通院患者の交流会を心理士、看護師、MSWが世話役となって開催
- ・ 他院多職種の研修
 - － 小児緩和ケアカンファレンスの開催（全国対象）

指定前後の変化

(実施できなかったこと)

- 地域連携
 - － 大阪府内では地理的要因から逆紹介のニーズが少ない。遠隔地からの患者は、またはターン紹介を実施。
- 専用病床の増床、AYA専用病床の確保（現状では分散している）
 - － 空床の利用により、不要となった。
 - － 化学療法専用病床として成人用1病棟の確保を予定。その一画をAYA世代用とする。

事業実績報告

●実績報告に記載の項目

病院名：大阪市立総合医療センター

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費

・小児がん医療従事者研修事業	0. 1百万円
・院内がん登録促進事業	0. 1百万円
・がん相談支援事業	6. 5百万円
・プレイルーム運営事業	5. 5百万円
・入院患者家族支援事業	2. 3百万円

今後の整備スケジュール

小児がん施設間の連携構築については、近畿ブロック計画に沿って進める。

診療機能

AYA世代専用病棟稼働

トモセラピー稼働

長期フォローアップ外来の充実

(コーディネーターナースの配置)

レジデント、スタッフの増員

患者支援

乳幼児教育の充実(保育士増員)

きょうだい保育(直営)の開始

外来交流会の開始(月1回)

AYA世代交流会の開始(月1回)

宿泊施設の増室

研修機能

地域医療機関対象の研修会の開始

多職種研修会

平成26年度

平成27年度

平成28年度

平成29年度

小児がん拠点病院整備の進捗状況 について

関東甲信越ブロック
東京都立小児総合医療センター

診療実績

[illegible]

・（ ）内は平成24年10月9日⋈提出の新規指定申請書の数値、中段は平成25年12月末提出の現況報告の数値
下段は、平成25年1月～12月の実績

指定前後の変化

＜進捗があった点＞

- 患者数
 - ①新規診断患者数：24年 51人 → 25年 49人
 - ※神経芽腫、脳腫瘍等集学的治療を要する固形腫瘍が増
 - 小児がん患者のPICU入室者 25年度45人
 - ②血液・腫瘍科ベッド稼働：24年 28.5人/日 → 25年 33.3人/日
- 移植件数
 - 同種造血細胞移植 24年 9件 → 25年 7件
 - 自家造血細胞移植 24年 2件 → 25年 7件
 - ※脳腫瘍に対する治療として、自家造血細胞移植併用大量化学療法が増えている
- 手術実績
 - 脳腫瘍 24年 5件 → 25年 15件 ※増加している
 - 上記以外の固形腫瘍 24年 17件 → 25年 17件
- 臨床試験参加数 24年 19件 → 25年 20件／21件 95%の試験に参加
- 人材養成（増加分）
 - がん治療認定医機構がん治療認定医 1名
 - 造血細胞移植学会移植認定医 1名
- ブロック内の他の拠点病院との看護交流研修を2回実施
- 長期フォローアップへの取組として、成人医療への移行外来を開設
- 小児がんに関する勉強会やTumorBoard（がん治療の検討会）を院外にも公開（26年6月）
- 子どもがん相談支援センターを開設し（25年10月）ホットラインを設置
- 人員体制
 - 緩和ケア専従看護師の配置（26年4月）、がん相談支援センターにMSWの専務的非常勤職員の増員（25年9月）、院内がん登録専務的非常勤職員配置（25年5月）
- 東京都小児がん診療連携協議会の事務局に指定
 - ①都内2拠点病院及び12診療病院の詳細な診療情報を26年3月にホームページ（http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/gan_portal/）に公開
 - ②東京都小児がん診療連携推進事業の一環として、26年3月に日本医科大学付属病院の前田教授による長期フォローアップガイドライン等に関する市民公開講座「子どものがんを考える」を開催

指定前後の変化

<進捗が無かった点>

○ 長期フォローアップ外来の開設

⇒ 脳腫瘍患者をモデルケースとした、長期フォローアップ外来体制を26年度中に開設するべく、WGを立ち上げて対策を検討している。以下は長期フォローアップ外来体制の概要

- ・ 対象患者は半年から1年おきのフォローアップとなった患者
- ・ 事前にコアメンバー（血液・腫瘍科医、脳神経外科医、看護師、心理士等）で各患者のフォローアップ予定を作成
- ・ 一日で必要各科、部門を回れるようアレンジ（調整を担当するコーディネーターを育成）
- ・ フォローアップ外来毎にカンファレンスを行い、必要があればフォローアップの方向修正
- ・ 昨年発刊されたJPLSG長期フォローアップ委員会によるガイドラインに基づいて実施

○ 小児がん診療の十分な実績を持つ他の医療機関との間での、Webなどを用いたカンファレンスによる症例の共有

⇒ 東京都小児がん診療連携協議会の診療連携ネットワークにて症例検討会等を導入するよう検討していく
⇒ 臨床研究支援センターを中心に、Webによるオンラインカンファレンスのインフラを整備予定であり、活用を検討中

○ AYA世代への対応の強化

⇒ AYA世代の患者さんの意見、視点を収集し、それを尊重した物品を選定・購入してプレイルームの整備を行う

○ 人員体制

小児がんに関わるスタッフ（医師、看護師）の不足

⇒ 現状の患者数には対応できるが、増やすためには対策が必要

長期フォローアップや造血幹細胞移植に係るコーディネーターの確保が課題

事業実績報告

●実績報告に記載の項目

病院名：東京都立小児総合医療センター

平成25年度小児がん拠点病院機能強化事業費

13百万円

・小児がん医療従事者研修事業

0円

・院内がん登録促進事業
報酬

2百万円

・がん相談支援事業
給与費

7百万円

・プレイルーム運営事業
給与費

4百万円

・入院患者家族支援事業

0円

今後の整備スケジュール

1 集学的治療及び標準的治療の提供

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
(1) チーム医療による集学的治療及び標準的治療の実施体制	集学的治療の実績を積み重ねて、小児がん疾患を集約化	重症患者への対応強化 地域発症は標準的治療も引き続き対応していく		
(2) 専門的な知識及び技能を有する医療従事者及び療養を支援する者の確保及び配置	- がん治療認定医機構がん治療認定医 - 造血細胞移植学会移植認定医	- 緩和ケア認定看護師 - 小児血液・がん学会認定外科医	専門資格取得の推進	推進
(3) 再発がん及び難治がんへの対応	- 重症合併症患者の集約 - 治験の対応など新たな治療への対応	ICH・GCP準拠の国際共同研究「IntReALL SR 2010」に参加	再発難治がんに関する臨床試験に参加していく	推進
(4) 患者が増えた場合の病床確保等の対応方法	35床		段階的に拡大	50床
(5) 思春期のがん患者への診療体制				充実
(6) 緩和ケアサポートチームによる緩和ケアの実施体制	他院の主治医又は看護師からの相談に対応	- 研修の受け入れ - 緩和ケア加算の取得		充実
(7) 外来化学療法		体制充実のため、がん化学療法看護認定看護師の取得を目指す		認定看護師増による体制強化

今後の整備スケジュール

2地域連携

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
(1) 役割分担 ・東京都における小児がん対策	・都内病院の情報公開	・医師向け早期診断ハンドブック作成	・都小児がん診療連携ネットワーク内での診療連携を推進していく	推進
(2) 患者を受け入れる主な地域 ・情報公開 ・Web、講演会での情報共有	・当院ホームページに小児がんのページを追加し、情報を提供	・ホームページの充実		推進
(3) 自施設では十分に対応できない疾患及び病態		・陽子線、重粒子線治療、MIBIG治療等については関係施設と連携していく	・各施設の得意分野を生かした連携の強化	連携強化
(4) 長期フォローアップ及び晩期合併症	・移行外来開設	・長期フォローアップ外来モデルケース(脳腫瘍)試行	・長期フォローアップ外来他疾患にも拡大	充実

3その他

項 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
(1) 研修	・看護師交流研修	・実習、研修の受け入れ		推進
(2) 相談支援及び患者団体との連携	・相談支援センター開設 ・ホットライン開設 ・市民公開講座	・相談員養成 ・相談件数把握 ・市民公開講座		推進
(3) 臨床研究及びトランスレーショナルリサーチ	・当院発の多施設臨床試験FNO1を改定、継続中	国際共同臨床試験、研究を含め、国内で展開する臨床試験に参加していく		
(4) 患者への教育及び復学支援	・分教室との連携 ・幼児教育、就学前支援		連携、支援強化	
(5) 家族等が利用しやすい長期滞在施設の整備	・リフレッシュルーム利用時間拡大	・マクドナルドハウスとの連携強化		引き続き、サービス向上を目指す
がん登録	・10月院内がん登録開始		小児の標準登録様式が確定次第、移行していく	